

## ▼ポブスカイン注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 レボブピバカイン塩酸塩 levobupivacaine hydrochloride 【分類】 長時間作用性局所麻酔剤

【単位】 ▼0.25% (10mL, 100mL), ▼0.5% (10mL), ▼0.75% (10mL, 20mL)

【常用量】 硬膜外1回20mLまで

【用法】 0.25%製剤は術後疼痛に持続硬膜外で、0.5%製剤は伝達麻酔に、0.75%製剤は硬膜外麻酔剤に使用。

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【保存期腎不全患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 プピバカイン (マーカイン) のS (-) エナンチオマーでプピバカインに比べ、中枢毒性や心毒性が少ない (臨床麻酔 26:1533-1538,2002)

【主な副作用・毒性】 ショック, 意識障害, 振せん, けいれん, 知覚異常, 血圧低下, 悪心・嘔吐, 乏尿, 肝障害など

【吸収】 硬膜外投与から血中への吸収率は7%で高齢者ほど吸収速度が速い (Simon MJ, et al: Br J Anaesth 93:512-520, 2004) 2相性に吸収される (Simon MJ, et al: Eur J Anaesthesiol 21:460-470, 2004)

【F】 皮下投与時ほぼ100% [ラット] (1)

【tmax】 硬膜外投与時0.3~0.5hr (1)

【代謝】 主として肝臓でCYP3A4および1A2で代謝される。CYP3A4はデスブチル体, 1A2は3-ヒドロキシ体への変換に関与する (1)

【排泄】 尿中に未変化体0.18%, デスブチル体3%, 3-ヒドロキシ体およびその抱合体5.18%, 4-ヒドロキシ体およびその抱合体0.25%が回収 [iv, 48hr まで] (1) 【CL】 380~540mL/min (1) 腎不全患者でも変化なし (1) 349±114mL/min (Simon MJ, et al: Eur J Anaesthesiol 21:460-470, 2004)

【t1/2】 2~2.5hr [iv] (1) 硬膜外投与時: 10~16hr (1) 196±65min (Simon MJ, et al: Eur J Anaesthesiol 21:460-470, 2004)

【蛋白結合率】 0.1μg/mLの濃度で94.8%, 10μg/mLの濃度で74.5%であり, AAGに対して飽和する (1)

【Vd】 硬膜外投与時200~300L/man (1) 90L/man [iv] (1) 56±14L/man (Simon MJ, et al: Eur J Anaesthesiol 21:460-470, 2004)

【MW】 324.89

【透析性】 効率的には除去できないと思われる (5)

【O/W係数】 1624 [オレイルアルコール/水] (1) 【pKa】 8.09

【相互作用】 CYP3A4阻害剤および1A2阻害剤による血中濃度上昇 (1) ジゴキシン: プピバカインの毒性閾値低下 (1)

【備考】 エピネフリンを添加しても作用持続時間の延長は認められない (1)

【更新日】 20120211

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。